

9月14日(金) 第103回定期中央大会を開催します。

一年間の運動方向を決める大切な大会です。今回の議案書には、「原子力問題の議論を進める」と述べるだけで、原子力に対して政策的な提起はほとんどしていません。しかし、それを考えるのが今期の最重要課題です。大会へ向けての討議では、皆さんの意見をどんどん出してください。大会へ向けてのスケジュールは

8月29日(水) 中央委員会

9月3日(月)、4日(火) 東海地区分会長会議(組合事務所 12:20 から)

[東海地区の分会長さんはいずれかに出席してください。]

9月5日(水)から9月13日(木) 東海地区一斉分会

高崎支部大会 9月5日(水)、大洗支部大会 9月12日(水)、那珂支部大会(未確定)

関連日程:

特殊法人労連定期大会 9月7日(金) (東京)

科労協運動の強化を図る検討会 8月31日〔東京〕

公 示

組合規約第20条第1号に基づき、第103回定期大会を下記のとおり開催します。

2012年8月23日

日本原子力研究開発機構労働組合

中央執行委員長 岩 井 孝

記

大会期日：2012年9月14日(金) 13:30~16:30

開催場所：真崎コミュニティセンター(東海村)

会議室

議 題：

第1号議案

[第63期の運動の総括と第64期の運動方針]

第2号議案

[第63期財政報告]

第3号議案

[第64期財政方針]

以 上

[給与の大幅削減特例処置をやめろ！ 2年も待ってられないぞ!!]

中央委員会を開催します。

日時：8月29日(水) 18:30~

場所：原科研 原研労組事務所

議題：四半期会計報告、選挙管理委員の承認、
外部団体役員の承認、ストライキにかかわる協定の承認、
大会議案の構成について 他

岩井労組委員長、東海村で講演

8月18日、東海村で、岩井委員長の講演会がありました。住民団体、東海村リリウム
の会主催で、約120人参加しました。原研労組が4月に出した声明「拙速な原発運転再
開に反対する」を紹介しながら、十分な安全を確認しないで、安易に政治的判断で運転再開
を決めた国の姿勢を批判しました。

< こんな資料がありました >

原研労組には、発足以来原子力問題に取り組んできた歴史があります。

労組の書庫には、シンポジウムなどの記録がたくさん残されています。そのひとつ
を紹介します。

[軽水型発電炉をめぐる諸問題]

(原電東海2号炉安全性検討委員会報告)

報告書の前書きによると、原電東海2号炉(現東海第2原子力発電所)の建設計
画が進んでいる中、1972年9月の労組中央委員会で、安全性の検討を行うことが
提案・決定され、検討委員会が設置されました。当の原電2号炉の資料がほとんど
未公開であったので、米国の同型の炉の公開資料を使いながらも、短期間でまとめた
ようです。製本された印刷物の日付は1973年3月1日になっています。B5版で
110ページになる報告書です。概要紹介に代えて、以下に目次を示します。

軽水型発電炉をめぐる諸問題 (原電東海 2 号炉安全性検討委員会報告)

目次

1. はじめに
2. 燃料および原子炉構造機器の問題点
 - 2.1 燃料に関する問題点
 - 2.1.1 燃料の信頼性
 - 2.1.2 燃料破損とFPの放出
 - 2.1.3 燃料破損の実例
 - 2.1.4 今後の問題点
 - 2.2 原子炉圧力容器、蒸気発生器、一次系配管の健全性と機器類の故障
 - 2.2.1 原子炉圧力容器、蒸気発生器
 - 2.2.2 一次系配管
 - 2.2.3 原子炉付属機器の故障、欠陥、事故
 - 2.3 軽水炉の大型化に伴う問題と課題
3. 非常炉心冷却装置(ECCS)－解説と問題点
 - 3.1 ECCS の働き
 - 3.1.1 冷却材喪失事故と非常炉心冷却系
 - 3.1.2 ECCS の種類と機能
 - 3.1.3 事故時の炉心内の変化の研究
 - 3.1.4 LOFT 実験とAEC の態度
 - 3.1.5 事故評価解析コードの現状
 - 3.2 「ECCS 問題」について
 - 3.2.1 ECCS 問題とわが国の災害評価について
 - 3.2.2 米国AEC のECCS に関する暫定基準について
 - 3.2.3 わが国における原子力委員会の対応について
4. 立地審査と潜在危険性
 - 4.1 計画安全性と実証安全性の相違
 - 4.2 工学的安全施設の信頼性と距離因子
 - 4.3 原子力施設の大型化に伴う問題点
 - 4.4 東海地区における潜在的被曝危険性
 - 4.5 東海地区における放射性廃棄物の集積
5. 災害評価
 - 5.1 検討の観点
 - 5.2 事故時の環境への放射能放出量について
 - 5.3 放出後の住民の最大被曝線量の推定について
 - 5.4 現行の基準および評価地のレベルについて
6. 環境問題
 - 6.1 アメリカの環境評価
 - 6.1.1 NEPA(国家環境政策法)
 - 6.1.2 環境報告書および環境声明書に関する概要と手続き
 - 6.1.3 環境報告書と環境声明書の内容
 - 6.2 東海村の環境問題
 - 6.3 海洋環境への影響
 - 6.4 NEPA 的観点からの環境審査の要求
7. 放出基準と自然バックグラウンド
 - 7.1 自然バックグラウンドの考え方
 - 7.2 放出基準について
8. 四日市ぜんそく公害裁判からの教訓
 - 8.1 四日市ぜんそく公害裁判からの教訓
 - 8.2 原発安全審査資料の公開について
9. 安全審査をめぐる行政上の問題点について
10. 米国における安全審査と住民運動
11. 原電東海 2 号炉安全審査書批判
 - 11.1 はじめに
 - 11.2 立地条件について
 - 11.3 放射線管理について
 - 11.3.1 基本方針について
 - 11.3.2 敷地内外の放射線管理について
 - 11.3.3 被曝線量の評価について
 - 11.4 災害評価について
 - 11.5 原子炉本体について
 - 11.5.1 審査方針
 - 11.5.2 敷地
 - 11.5.3 燃料棒の設計基準
 - 11.5.4 破損燃料の検出
 - 11.5.5 原子炉容器、配管等
 - 11.5.6 各種事故の検討
 - 11.5.7 審査の形式について
12. 要約
13. 文献および資料